

第1回とやま未来創造県民会議での主な意見

【結婚・出産の希望実現のサポート】

・若い世代は仕事に就くことが目標となっており、収入が安定しないと子どもを産み育てようと思わない。企業には、その人の生活、家庭をまるとして支援するという意識が必要。

・時間外保育を市町村ごとや校下ごとに設置、あるいは、重症でなくても医者が保育所などに駆けつけてくれる仕組みをつくるなど、安心して子育てできる体制づくりが必要。

・ヨーロッパの子供福祉基金のように、富山県版の福祉教育基金のような制度ができないか。

【雇用の創出、県外からの移住促進】

・大学への進学は、県外の大学のブランドに惹かれてしまうことがあるため、地方にもいろんなスペシャリストがいることをアピールする必要がある。

・社会が求めるスペシャリストを富山がいかに育てられるかが大事。新幹線の開業で首都圏からの通学圏内にもなった。富山でしか学べないことを考えていくことが重要。

・富山から県外に出た人には、「富山に帰りたい」と思うタイミングがある。富山から出るのを止めるのではなく、出た人が戻ってきやすいような情報発信が重要。

・東京から移り住んだ若い家族の生の声を聞くと、ニーズにあった大きさの家が富山でなかなか見つからないと言う。持ち家率や家の大きさなどの数値に満足することなく、実際の意見に耳を傾けることが重要。

・定住人口、交流人口のほかに、離れていても富山を応援してくれる人の数をカウントする仕組みを設けてはどうか。

・生産年齢人口を15～64歳とするのは現実的ではない。実際に働き始めるのは20歳くらいで元気に働く高齢者もいる。もっと実態に合わせたデータで分析すべき。

【女性・高齢者など多様な人材確保と労働生産性の向上】

・ 団塊の世代には、これまで企業を引っ張ってきた現場力がある。労働生産性を高めるには、こうした世代に企業の枠を超えて活躍してもらう取組みが必要。

【地域の基盤強化・魅力向上】

・ 隣の町から人を引っばってくるような取組みではなく、富山県全体で考えていくことが重要。

【その他】

・ 人口減少を克服するとあるが、どういう状態になったら「克服」といえるのか、共通理解を得る必要があるのでは。

・ 県と市町村の総合戦略の整合性を図るうえで、KPIをどうするかが重要。